

森構想エリア内における環境学習に関わるヒアリング結果

1. 行政・教育機関および企業等ヒアリングの実施

(1) 目的

21世紀の森構想エリアにおける今後の環境学習のあり方の検討に向けて、兵庫県内及び尼崎市内の環境学習の現状及び課題、ニーズを把握するため、①行政・教育機関、②企業へのヒアリングを行った。

(2) 結果

①行政・教育機関

ア. 調査方法

令和4年度第2回の協議会で小・中・高の環境学習の実態調査の提案があったことをふまえて、以下4つの機関を対象に、環境学習に関する現状・課題・ニーズや、ビジョン案に対する意見についてヒアリングを行った。

対象者	主な事業	ヒアリング目的	ヒアリング実施日
兵庫県教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ひょうごSDGs スクールアワード ・環境体験事業・自然学校推進事業 	子ども達が行っている環境学習等の実態等の把握	令和5年 8月実施
兵庫県 環境部 環境政策課	<ul style="list-style-type: none"> ・ひょうごエコロコプロジェクト ・ひょうごユース eco フォーラム ・ひょうご高校生環境・未来リーダー育成プロジェクト 	学生が行っている環境活動の実態等の把握	令和5年 9月実施
尼崎市 経済環境局 環境部 環境創造課	<ul style="list-style-type: none"> ・あまがさき環境オープンカレッジ推進事業（エコあまフェスタ等） ・あまがさき環境教育プログラム事業 ・環境学習プログラム紹介冊子の発行 	尼崎市内における環境学習の実態等の把握	令和5年 8月実施
兵庫県立人と自然の博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・共生のひろば ・エコロコプロジェクト 	兵庫県内の環境活動の実態等の把握	令和5年 12月実施

イ. 兵庫県立人と自然の博物館ヒアリング内容

兵庫県内の幼稚園や保育園などの乳幼児や先生を対象とした環境体験プログラムの「エコロプロジェクト」の事業内容や、園の環境学習の傾向、兵庫県内の環境に関する取り組みを行っている団体が集まり活動発表を行う「共生のひろば」などについてヒアリングを行った。

ウ. 兵庫県立人と自然の博物館ヒアリング結果

- 2020年に園を対象に実施したアンケート調査では、砂、水、廃材を使用した遊びをしていると回答する園が多かった。その他、研修の機会や園庭の改善のアドバイスが欲しいという声も多かった。
- 企業が製品や素材を持ち寄り、それらを使ってどんな環境学習ができそうか、園の先生と企業が一緒に考えるようなワークショップができれば、園の先生から様々なアイデアを寄せてくれる可能性がある。
- 尼崎市内でのエコロプロジェクトの取り組みとしては、エコロプロジェクトのパートナー施設の一つである尼崎の森中央緑地で、市内の園の先生が集まり、落ち葉を使った遊びの実践や情報交換を行ったことがある。
- 「共生のひろば」は、兵庫県全体の団体を対象としているため、持続的な繋がり継続が難しい。エリアを絞った地域単位で実施することで、人の持続的な繋がりが生まれる可能性がある。
- 以下のような取り組みを行うことで、先生方から環境学習を行うフィールドとして喜ばれる。
 - 独自でプログラムを持っていること。
 - 子どもたちをプログラム提供者に任せられること。
 - 校外に出ずに、キットを使って学校の中で完結するプログラム。
 - 他施設と同日に寄れるスケジュールを組みやすいこと。
 - 子どもたちにとって楽しい校外学習での学びの効果を高めるには、事後の振り返りワークシートなどがあれば良い。あるいは、家庭学習を推進するようなシートがあり、ウェブからダウンロードできると、興味のある親子は自宅で学習できる。

②企業

ア. 調査方法

アンケート回答者で、今後の環境学習の展開について前向きな回答が得られた企業や、尼崎21世紀の森SDGs賞の説明会の参加者で、尼崎の森中央緑地に興味を示された企業を対象に、今後、尼崎21世紀の森構想エリア内で環境学習に関して取り組みそうなことなどについてヒアリングを行った。

対象企業	ヒアリング目的	ヒアリング実施日
1. 環境学習を行っている企業 (5社)	環境学習を行っている企業が、どのような考えの上で、環境学習を実施しており、今後どのような展開を検討しているのか等を把握	令和5年12月 ～令和6年2月 実施
2. 環境学習を行っていないが、今後行っていきたいとアンケートで回答している企業 (5社)	どのような形で森構想エリアでの環境学習に関わることができるか等を把握	
3. 尼崎21世紀の森SDGs賞の説明会の参加者で、尼崎の森中央緑地に興味を示された企業 (1社)		

イ. ヒアリング内容

アンケート結果から得られた環境学習の現状や、環境に関する取組みについて再確認し、またそれらの課題や今後の展望についてヒアリングを行った。

ウ. ヒアリング結果

<環境学習や環境に関する取組み現状について>

取組みの概要	具体的な内容
自然・生態環境に関する取組み	苗木づくりや養蜂、魚のアラを使った肥料づくりなど
企業活動を活かした取組み	ガラスや廃油などを使った環境学習イベントの開催
SDGs 学習支援	都市インフラを支える自社の事業を SDGs の観点から紹介
エコやリサイクルに関する取組み	CO2 削減、リサイクル活動、会社周辺の清掃活動、廃材を利用したアート制作など

<課題や今後の展望について>

- ・「社外の方との繋がりを広げていきたい。」「自社の環境学習のプログラムに興味のある方とのマッチングの機会があると良い。」など繋がる場を求める意見があった。
- ・会社の人材確保に向けて、環境学習を通して子どもたちに自社の取組みに興味を持ってもらえるようにしていきたいという意見があった。
- ・環境学習の担当者が少ないため、自社で新たな取組みを行うのが難しいが、関連企業への環境学習関連イベント等の周知や、環境に関する取組みについての情報提供などであれば可能であるという意見があった。

2. 行政・教育機関および企業等ヒアリングのまとめ

行政や教育機関、企業へのヒアリングから、尼崎21世紀の森構想エリアの環境学習プロジェクトへの参画には様々な関わり方があることが分かった。プロジェクトへの参画については、以下の方法案が考えられる。

参画方法案	対応する意見と内容
1. (仮称) 企業版森の会議	繋がる場の機会が求められている意見があったことから、企業や尼崎市内の園や学校の先生などが一堂に会し、 <u>情報共有や意見交換をする場を創出する。</u>
2. イベント参加	情報の発信・共有の場が求められている意見があったことから、尼崎21世紀の森構想の取組みを広く周知する <u>イベントやフォーラムを開催し、ブース出展などをしていただく。</u>
3. 施設見学	工事現場や工場の様子を近隣住民などに、実際に見てもらう取組みをされている企業があることから、 <u>見て学べる機会を設ける。</u> (安全が確保される場所のみとする)
4. 資材・廃材等の提供	こども園などでは廃材を活用した遊びをされていることが分かった。 また、企業では環境学習の担い手が少ないという声もあることから、 <u>資材や廃材等を提供いただくことで環境学習に携われる仕組みを作る。</u> (プレーパークの実施など)
5. 環境に関する取組みについての情報提供	校外学習の振り返りができるワークシートなどがあると学校が環境学習の実習フィールドとして選択いただきやすくなることが分かった。 また、企業では環境学習の担い手が少ないという声もあることから、 <u>各企業で行っている環境に関する取組みについての情報を提供いただき、尼崎21世紀森構想エリア内で行われている環境の取組みについて、子どもたちが遊びながら学べるツールづくりを行う。</u>
6. 関連企業への周知	企業では環境学習の担い手が少ないという声があったことから、 <u>関連企業に環境学習関連イベント等の情報周知をしていただくことで、環境学習の協力企業としてプロジェクトに参画いただく。</u>

